

第421回:究極のお友達内閣

2006年に発足した第一次安倍内閣は、06年の自民党総裁選で安倍氏を支持した議員を優遇したことから、「お友達内閣」、「論功行賞内閣」などと揶揄され、僅か一年で骸骨を乞うことになった。

キャビネットを構成する一員である以上、経済政策や安全保障といった重要問題で、意見に大きな乖離があったり、不倶戴天の仇敵揃いの間柄であったりすれば内閣は長持ちしないので、気心の知れた仲間を重要ポストに起用することは決して間違いではない。

問題は、お友達内閣からは往々にして閣僚の資質に欠ける凡庸な人物が出やすいことと、面と向かって首相を批判する人物がいないことだ。保守系内閣だからこそ、一定数のリベラル派を閣内に配置し、彼らがときに苦言を呈することによって、内閣運営に緊張感を持たせるといった工夫が重要なのである。

安倍さんもお友達内閣の弊害に気付いたようで、今年の内閣改造では資質に欠ける閣僚を一掃するなど、随所に工夫がみられるが、一方各派閥への目配りも無視できないので、結果的には華も実もある内閣とは云い難い凡庸な内閣となったという意見もあるようだ。

しかし地大物博、安倍さんのお友達内閣が裸足で逃げ出すほど強烈な「老朋友内閣」が日本近辺に誕生した。10月25日に誕生した第2期習近平政権だ。

俗にチャイナセブンと呼ばれる最高指導部を形成する中共中央政治局常務委員の顔触れは、①習近平(64)、②李克強(62)の二人が留任し、以下新任(=昇格)の③栗戦書(67)、④汪洋(62)、⑤王滬寧(62)、⑥趙楽際(60)、⑦韓正(63)の顔触れとなった。予想通りだが、面白みに欠ける面々だ。

派閥の構成は主流派が習主席に加え、同氏の盟友栗戦書と、習氏好みの地味な趙楽際の3人。胡錦濤前主席の流れを汲む共青团系は李克強と汪洋の2人。今はともかく嘗て江沢民系(上海派)と目されていたのが王滬寧と韓正の2人。25年も前から鄧小平によって「有能な人材」と認められていた硬骨漢の汪洋以外は線の細い柔軟タイプ揃い。習一極体制はこれで固まったと考えて良いだろう。

25名の中共中央政治局の中でチャイナセブンを除く18名の顔触れは、更に「お友達カラー」が濃くなった。習氏の政治キャリアは、3年間の国防部長の秘書官、同じく3年間の河北省の村長を経て、福建省に転じ、ここで17年間働いて省No2の省長まで上がる。そのあと浙江省に転出し、初めてNo1の党委書記となって5年間勤務。最後に2007年、上海市の党委書記を数カ月勤めたところで中央入りを果たす。

今回選ばれたヒラ政治局委員18名の内、15名が昇格組だが、その中に習氏の浙江時代の部下が4人もいるのに驚いた。数年前までは無名だった連中だ。4氏は習氏が浙江省トップを勤めた2002年～07年ごろに顔馴染みとなった仲であり、省内における彼らの最終職位は以下のとおり。カッコ内は前職と現職。

陳敏爾(57) 省委常委委員 宣伝部長 (貴州省党委書記⇒重慶市党委書記)

黄坤明(61) 同上 嘉興市党委書記 (中央宣伝部副部長⇒書記 中央宣伝部長)

蔡奇(62) 同上 組織部長 (北京市長⇒北京市党委書記)

李強(58) 同上 秘書長 (江蘇省党委書記⇒上海市党委書記)

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

1/3

省の党常務委員とは省の最高指導部であり、現在浙江省は9名で構成されている。内訳は①党委書記、②副書記・省長、③宣伝部長、④杭州市書記、⑤省規検委書記、⑥組織部長、⑦秘書長、⑧筆頭副省长、⑨温州市書記であり、この人事構成は今も昔も変わっていないことがわかる。

浙江省時代の習氏を支えた陳・黄・蔡・李カルテットの当時の役職を日本企業に譬えれば、陳敏爾＝営業本部長、黄坤明＝名古屋支店長、蔡奇＝人事部長、李強＝秘書室長といった感じかな。

習氏のお友達は政治局内にまだまだいる。中国第3位に登り詰め、来春全人代委員長に就任すると思われる**栗戰書**(67)は習氏が河北省で村長を勤めていたとき隣村の村長だった人物で、30年来の親友だ。

栗戰書氏に代わり、習政権の総務・秘書役を担うことになった**丁薛祥**(55)中央弁公庁主任は習氏が上海時代に抜擢し秘書官に任命した腹心。習氏は豪快にも自分の秘書を官房長官に抜擢したことになる。

習政権における経済分野の軍師といわれる**劉鶴**(65)氏と、今回軍事委員会入りを果たした**張又俠**(67)軍委副主席は、共に習氏の個人的友人だ。

これは「究極」のお友達内閣ではないか。団結力は強そうだが、これで大国の舵取りができるのか他人事ながら心配になる。もし習氏に健康問題が生じたとき、誰が代わりに勤める？敢えていえば最近元気がない李克強氏と、新任の汪洋氏だが、両氏とも胡錦濤に連なる共青团系の人物であって、習系ではない。

習さんの老朋友の大半は、60歳を大きく超えており、若手といえば、最近まで無名だった陳敏爾、丁薛祥といったカードしかない。今後の5年で彼らが大きく育てばよいけど。

しかし顔と履歴書だけで人物を判断してはならない。1901年(明治34年)、第一次桂太郎内閣が発足したとき、閣僚の顔ぶれは、内海内相、曾禰外相、児玉陸相等、山本権兵衛海相を除けば、山縣有朋系の官僚政治家揃いだったため、世人は桂内閣を「緞帳内閣」、「二流内閣」とバカにした。しかし、この少壮内閣は、爾後5年に亘って政権を担当し、日露戦争に勝利したという例もある。でもこれは日本の例だけだ。

この5年間、習政権を支えた最大の功労者王岐山氏は静かに身を引いた。来春、ヒラ共産党員の肩書で、国家副主席に就任するとのウワサもあるが、同氏は若い頃陝西省博物館に勤務したことのある歴史通だ。

漢の高祖劉邦を支えた三傑のうち、「国士無双」韓信が悲惨な最期と遂げ、身を引いた張良が長寿を全うした故事の意味をよく分かっているのだろう。古人曰く 狡兔死して走狗烹らる。(了)

文中の見解は全て筆者の個人的意見である。

平成29年11月10日

筆者プロフィール

杉野光男

東洋証券株式会社 主席エコノミスト

一橋大学商学部卒、三菱信託銀行(現三菱UFJ信託銀行)入社、上海華東師範大学へ留学

同行北京駐在員、上海駐在員事務所長、理事中国担当部長を経て、2007年より現職

著書 日本の常識は中国の非常識(時事通信社)、中国ビジネス笑劇場(光文社)等

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

2/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号

日本証券業協会 加入

本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 TEL03-5117-1040

ご投資にあたっての注意事項

手数料等およびリスクについて

① 株式の手数料等およびリスクについて

- ・ 国内株式の売買取引には、約定代金に対して最大 1.2420% (税込み)、最低 3,240 円 (税込み) (売却約定代金が 3,240 円未満の場合、約定代金相当額) の手数料をいただきます。国内株式を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。国内株式は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。
- ・ 外国株式等の売買取引には、売買金額 (現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買いの場合には加え、売りの場合には差し引いた額) に対して最大 0.8640% (税込み) の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。外国株式は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

② 債券の手数料等およびリスクについて

- ・ 非上場債券を募集・売出し等により取得いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、元本の損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動等により価格が上下するほか、カントリーリスク及び為替相場の変動等により元本の損失が生じるおそれがあります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本の損失を生じるおそれがあります。

③ 投資信託の手数料等およびリスクについて

- ・ 投資信託のお取引にあたっては、申込 (一部の投資信託は換金) 手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価格が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

④ 株価指数先物・株価指数オプション取引の手数料等およびリスクについて

- ・ 株価指数先物取引には、約定代金に対し最大 0.0864% (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。
- ・ 株価指数オプション取引には、約定代金、または権利行使で発生する金額に対し最大 4.320% (税込み)、最低 2,700 円 (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。株価指数先物・株価指数オプション取引は、対象とする株価指数の変動により、委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

3/3

